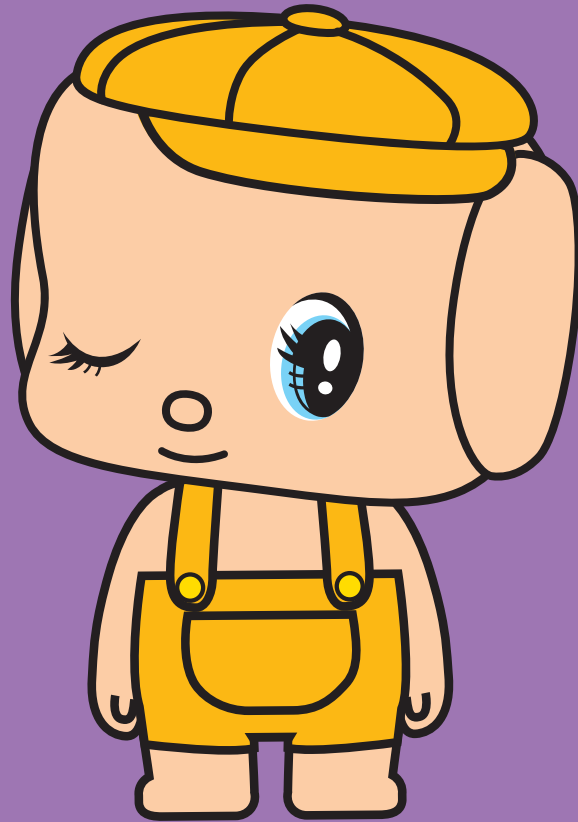
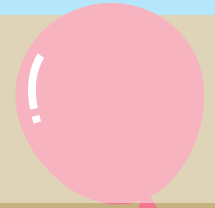
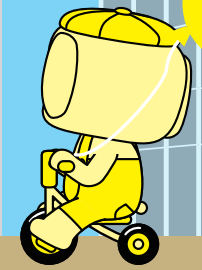
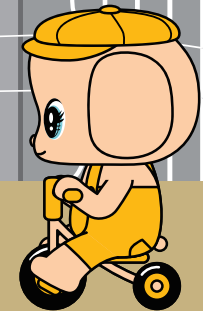
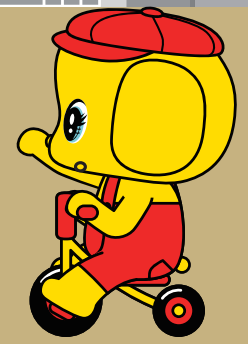
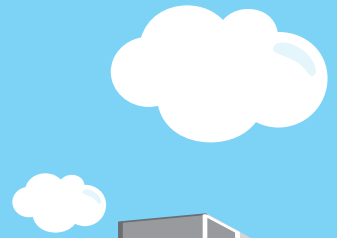
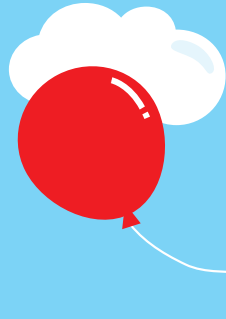


# フエキくんのおはなし④



きぶんをかえるまほうですよ♪



フーカンを追いかけて三輪車を  
 キンキン、キンキンと走らせます。  
 キンキン、キンキン、もうすこし！  
 フエキくんたちは街の方までやってきました。  
 「ボクのフーカン、待つですよ〜！」  
 フーカンを追いかけてながら進んでいると、  
 きいろくんが急に止まりました。

「きいろくん、どろしたの？」

「あ、なんも何か追いかけてるみたい。」

きいろくんが追っているほうを向くと、

その先にいたのはウサギサヤムプでした。

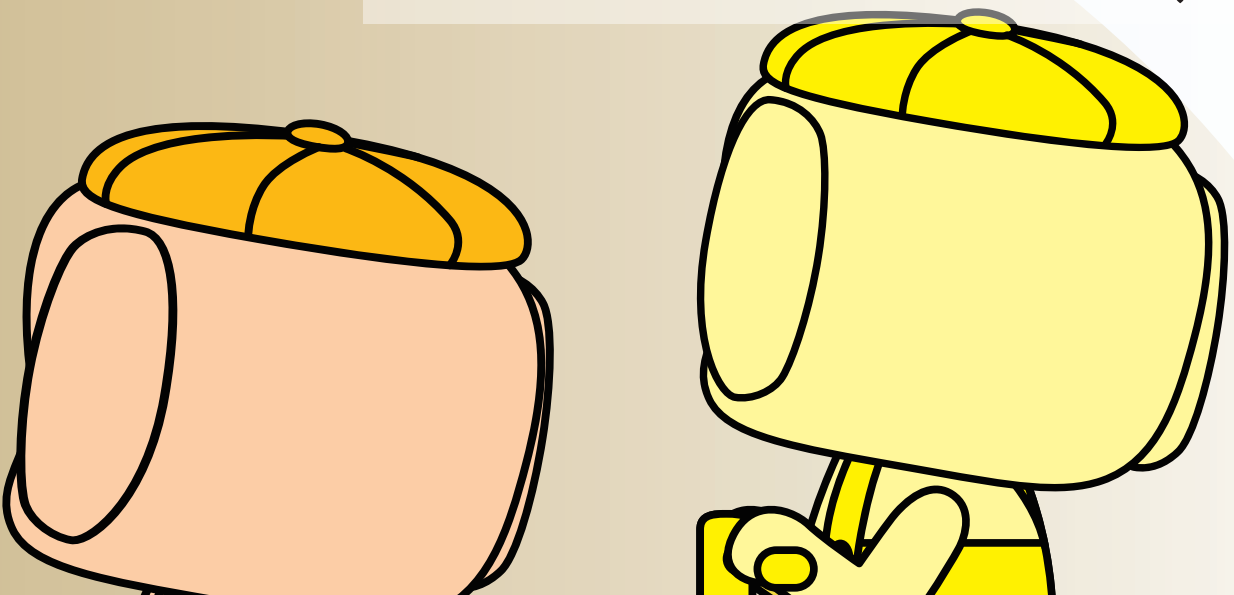
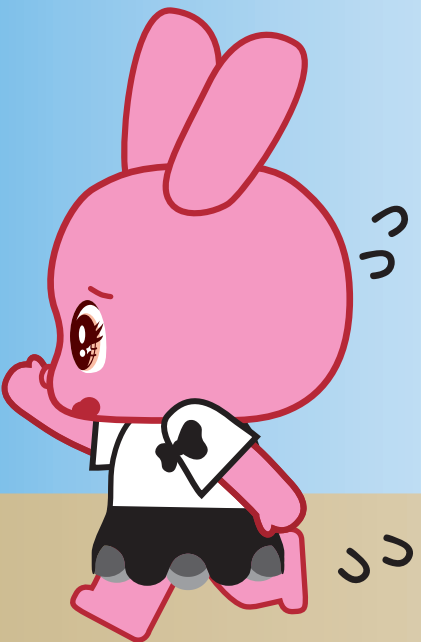
「ウサギサヤム、どろしたの？」

と、フエキくんたず。

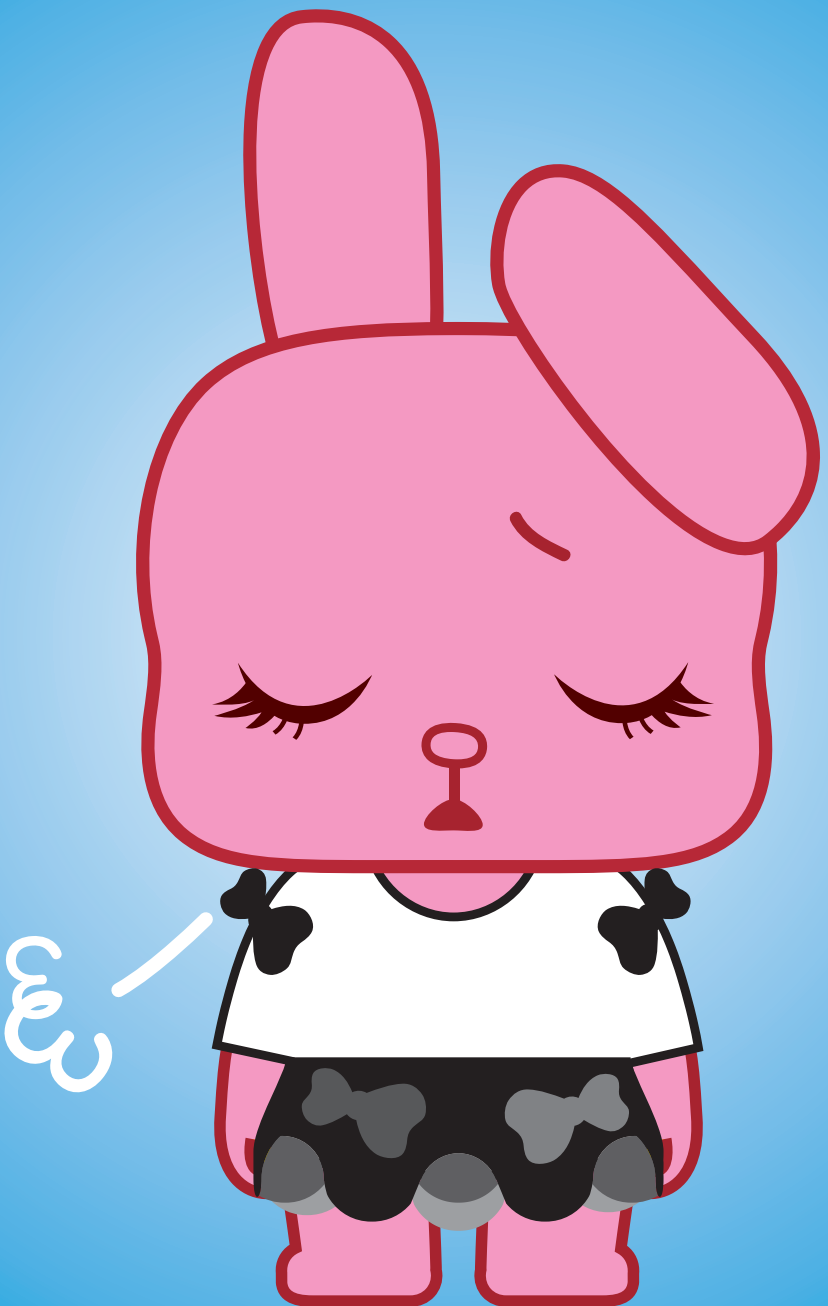
「わたしの名前がスーニボンが

画で探せばわかるサヤムプのー。」

空には、赤いソーカンと同じような  
ふわふわ、ヤンヤンとニボンが探しているのが見えました。



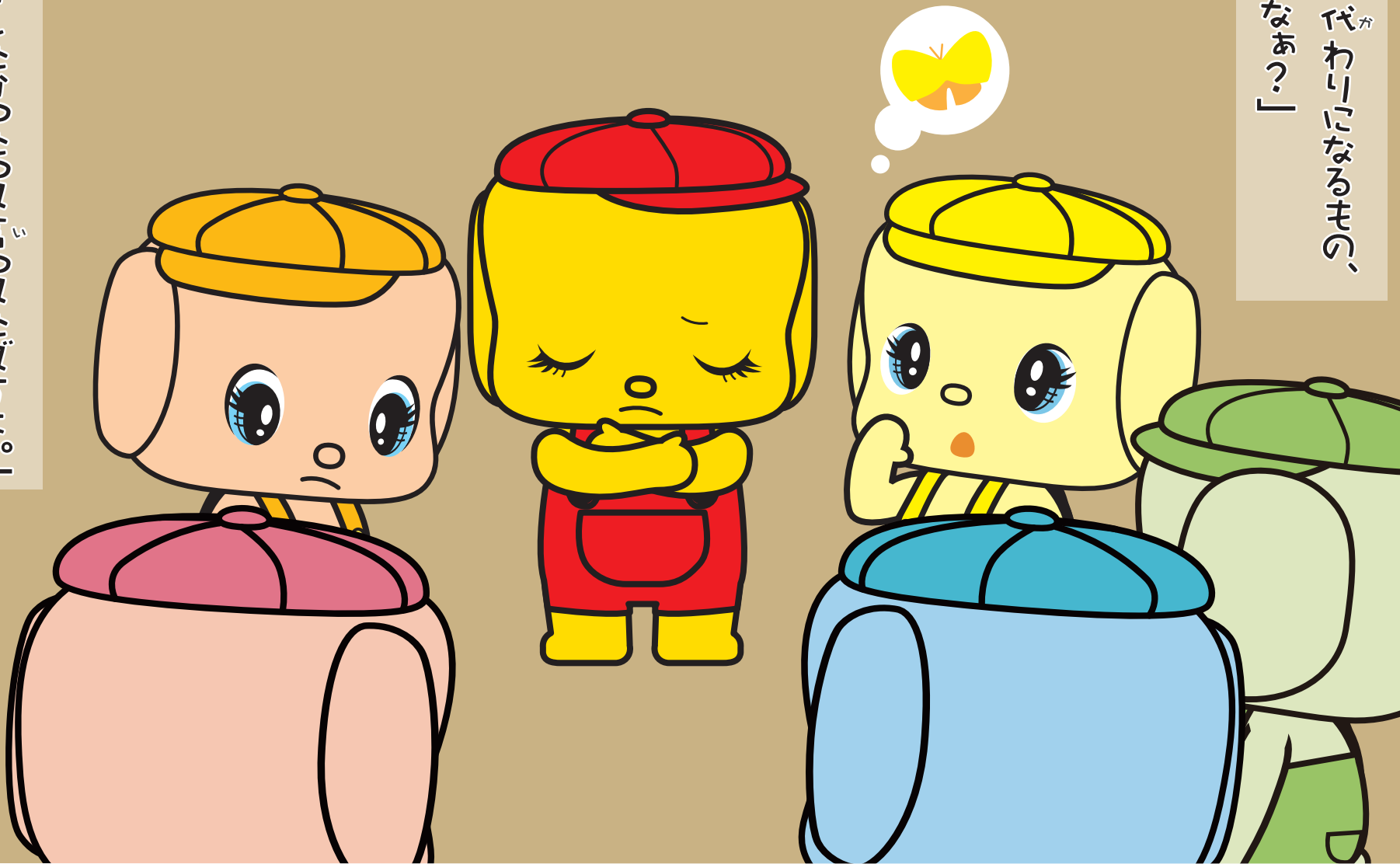
「あーあ、今日のはおかしかったわね。気分が分かったのよ。」  
ウサギちゃんはじまんのながい耳をたたく。  
残念そうにいます。

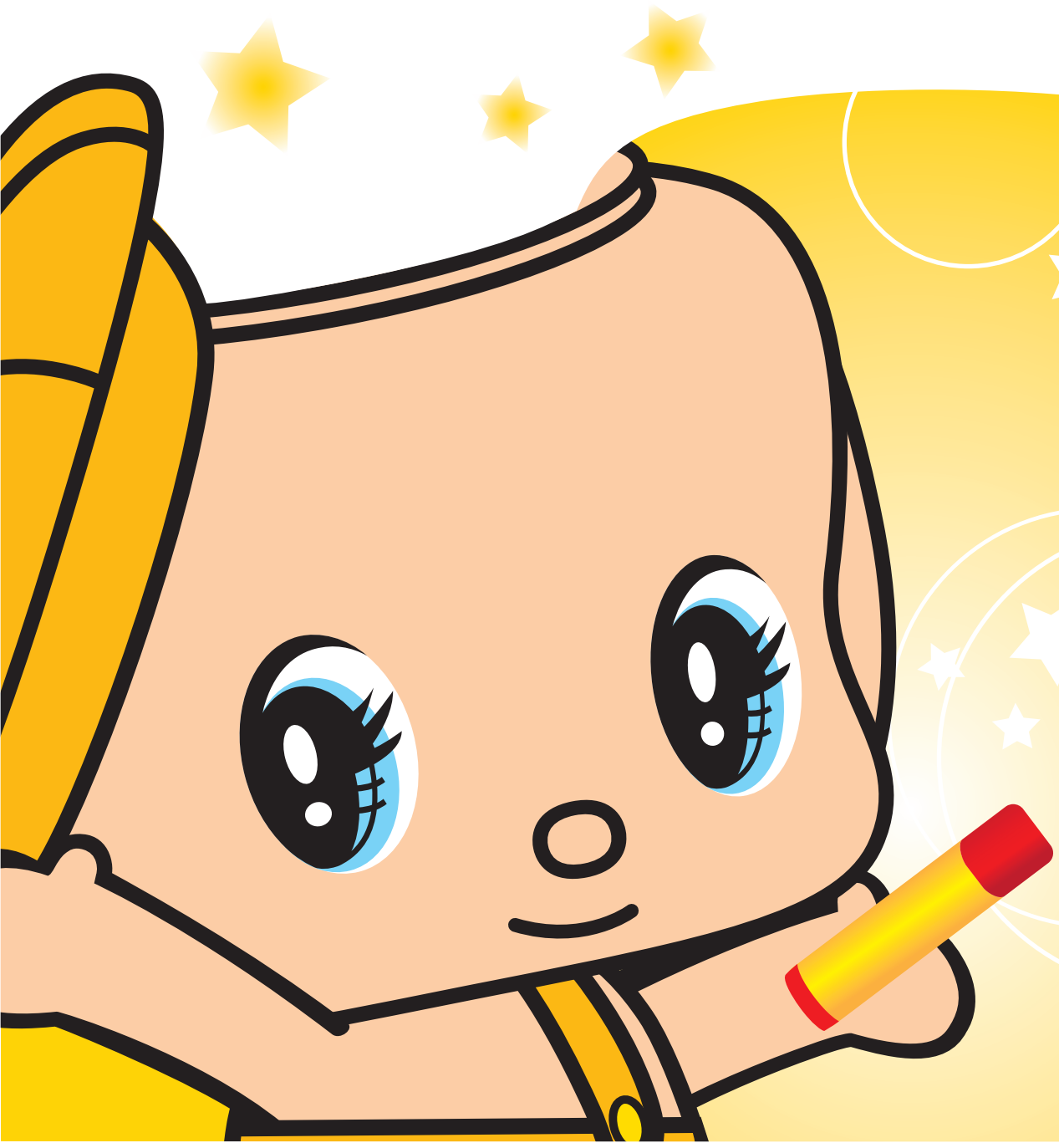


フエキくんたちは、自分たちと同じように  
風で飛ばされたものを追いかけているウサギちゃんに  
何かしてあげたいと思い、リボンの代わりになる  
ものがないか考えってみました。

「リボンの代わりになるもの、  
何かあるかなあ？」

「おしゃねがしたかったら言ってみてよ。」





「そらだー！コシなんてどうですか？」

チンチンと、オロンジんくんの帽子（カッパ）がひんひん、  
きんきんとリップクリームがぶてきました。

「うさぎちゃん、よければこれを使つかってみてよー！」

ウサギちゃんはリッププクリュームを受け取ると、さっそくさびるにぬってみました。



ぷっくりにるるる、

かわいいさびるのづきあがり。

「わあ！とっつもおしやれな気分きぶん

とっつもおしやれな気分きぶん」

ウサギちゃんは、ハアッと笑顔えがおになり、

フェキくんたちもつられて笑顔えがおに

なりました。

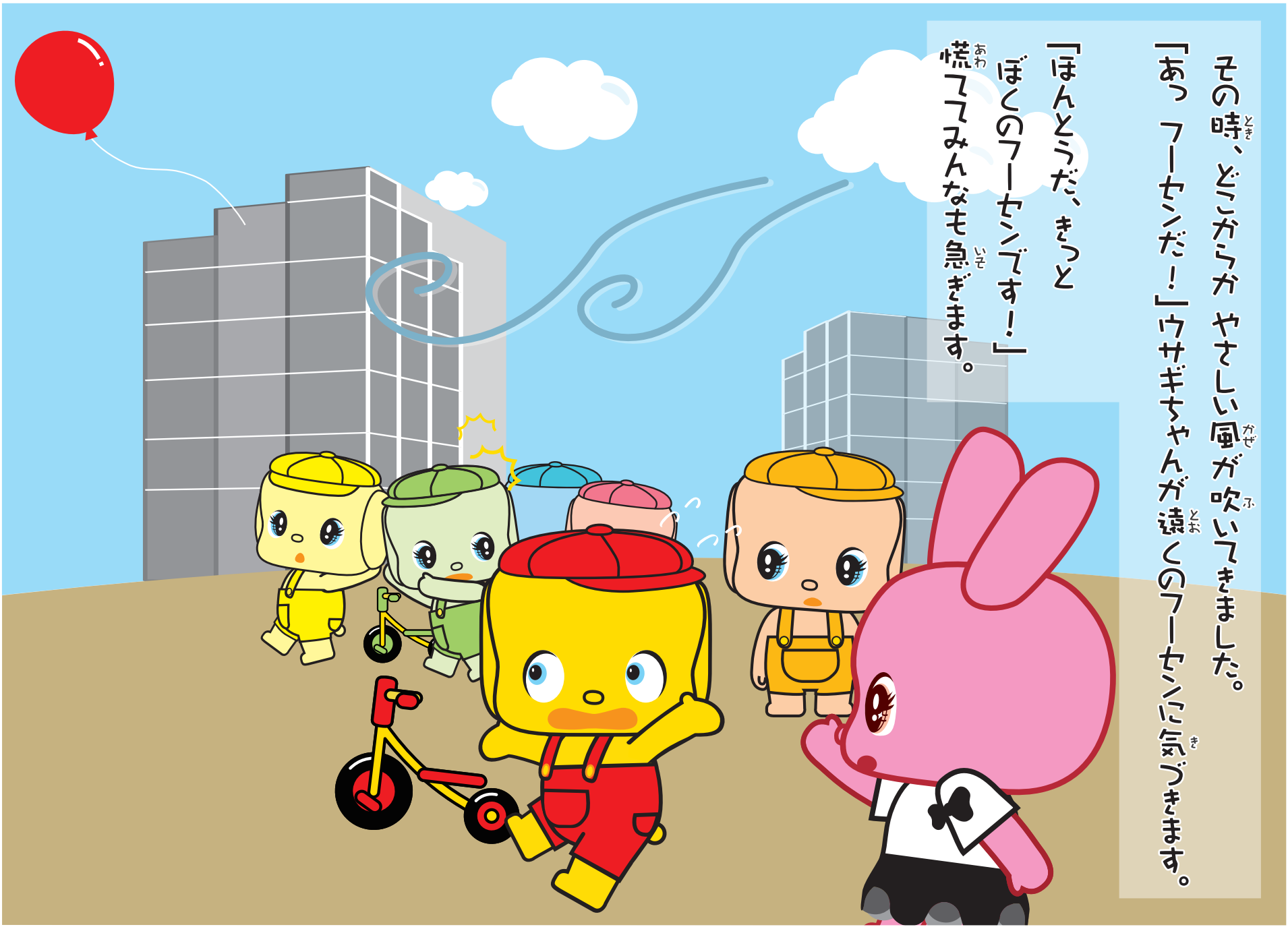


その時、どこからかやわしい風が吹いてきました。  
「あっ、フーサンだ！」ウサギちゃんが遠くのフーサンの気配がします。

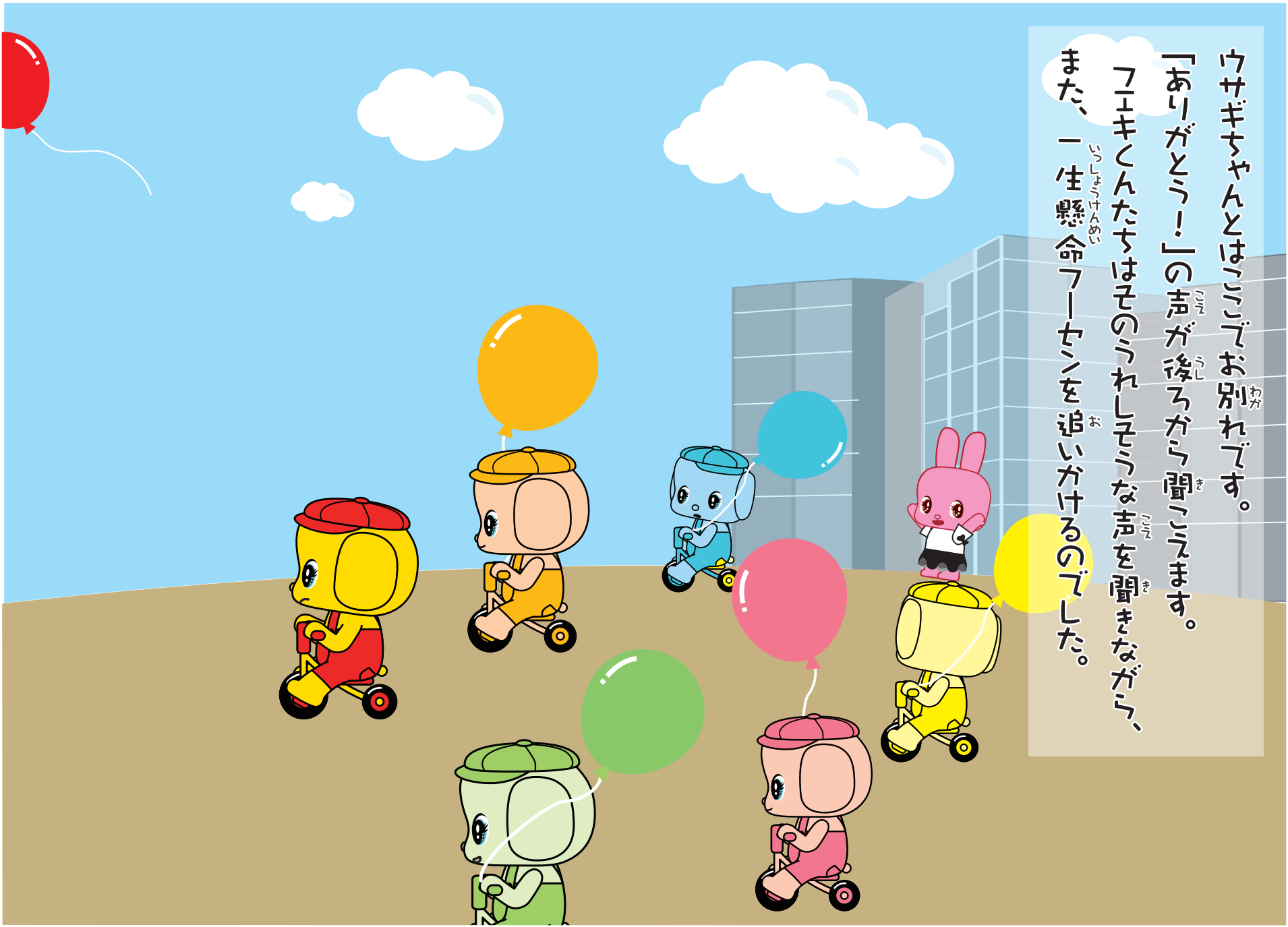
「ほんとうだ、きっと」

「ほくのフーサンですー！」

慌ててみんななも急ぎます。







ウサギちゃんとはなごころでお別れです。  
「ありがとう!」のまが後ろから聞こえます。  
「エキくんたちはそのうれしそうな声を聞きながら、  
また一生懸命フォーセンを追いかけるのでした。」

